

ニ) セレベス海

表面水温は26.8~30.0、100m層で20.0~28.0、200m層13.10~26.45である。

ホ) バンダ海

表面水温は28.30~29.50、100m層で20.90~28.60、200m層13.50~26.30である。

透明度の分布

イ) フィリピン東海

透明度板での測定結果は24回の中、最高49m最低は24m平均39.1mを示し、全調査海域の中で一番透明度の高い漁場である。

ロ) ミクロネシア海域

調査回数28回、最高55m最低21m平均37.8mで、フィリピン東海に次ぐ高い漁場である。なお55mの透明度は全海域で最高値である。

ハ) ハルマヘラ近海

調査回数32回、最高43m最低13m平均28.8m透明度の一番低い漁場である。なお当海域では10m台の低い透明^度が3ヶ所において測定される。

ニ) セレベス海

調査回数62回、最高45m最低18m平均32.3mを示している。

ホ) バンダ海

調査回数15回、最高39m最低23m平均31.6mで特に目立つような低い水域や高い水域は見当らなかった。

要 約

- 1) 魚種別の出現比率は、キハダがトップで全体の65.92%を示し、サメ類の16.44%、メバチ9.77%、バシヨウカジキ3.40%、クロカワカジキ2.00%、シロカワカジキ1.11%、ビンチヨウ0.72%、メカジキ0.43%、マカジキ0.16%の順位でキハダは本漁業の一番貴重な資源であることが容易に察せられる。
- 2) 漁場別平均的獲率はセレベス海の3.98%が最高で、バンダ海の3.80%、ルマヘラ近海の3.53%で夫々高率を示したがミクロネシア海域で2.65%、フィリピン東方近海では2.33%で両漁場共2%台で低調だった。
- 3) ビンチヨウは、ミクロネシア海域で漁獲されたものが主体であるが同海域の中でも特にサイパン近海が主漁場となり、他の海域には殆んど出現していない。
- 4) フィリピン東方近海で5月上旬に成熟卵を有するクロマグロを2尾釣獲したが釣獲場所は北

緯20度線一帯であって、20度線以南の漁場ではこれまで釣獲した記録は1度もなかった。

- 5) 1鉢5本付と4本付の漁具構成で操業してもマグロ類は深い方の枝縄で多獲され、カジキ類は浅い方の枝縄で多獲された。
- 6) 浮縄を約2倍の長さにして漁具の設置層を総体的に深くした場合は、セレベス海では好成績を納めたがマイクロネシア海域では余り良くなかった。
- 7) 漁具の設置層を深くした場合、セレベス海ではマグロ類の釣獲率は著しく上昇しカジキ、サメ類は低下した。また、マイクロネシア海域ではマグロ類とカジキ類は低下しサメ類は上昇した。
- 8) 使用漁具数を50鉢増すと操業1回当たり平均6.6尾の生産増となった。
- 9) 赤道以北の漁場と以南の漁場での漁獲比は赤道以北の漁場は平均釣獲率3.22%を示し以南では3.84%で南緯側の方が良かった。
- 10) 漁獲物の被害魚は主として、サメ類やシャチ等によるものであるが被害率の最も高い漁場はハルマヘラ近海で被害率は、マグロ類で21.87%カジキ類も12.63%であった。被害率の一番低い漁場はフィリピン東方近海で被害率はマグロ類の7.14%カジキ類0.80%であった。
- 11) 漁獲物の被害魚は、どの漁場でもマグロ類の被害率が高い場合はカジキ類も高く両者、相関が見られる。
- 12) キハダの場合は、透明度が高くなるに従い釣獲率は低下する傾向を示しているが他の魚種では相関はないようである。
- 13) 表面水温と100m層の水温が同温であっても10°Cの温度差があっても総体的には、釣獲に差程影響しないことが分かった。
- 14) 年度別釣獲率の推移を見ると、どの漁場でも好漁年の翌年からは不漁への下降線を辿っている傾向が窺われる。豊、凶の年周期は資料不足のため判然としない。
- 15) バンダ、セレベス海のキハダ、メバチは、中・大型が多く出現し、他の海域では小型魚が多かった。
- 16) キハダの雌雄別出現率はどの漁場でも雄が圧倒的に多く大体2:1の割合で出現している。
- 17) キハダは全般的に未熟、初熟魚の出現が多かったが、バンダ海だけは熟度の高いものが主体となった。また、メバチ、バシヨウカジキも同様な傾向である。従って、バンダ海は産卵場としても大いに重要視される漁場ではないかと思慮する。
- 18) 各漁場における透明度は、マイクロネシア海域が一番高く最高55mを2回も観測され、最低は、ハルマヘラ近海で13mを3度観測されている。

総括：漁業室長 当真嗣誠

参 考 文 献

1. 沖縄の水産業……琉球政府農村局
2. マグロ・カジキ体長、体重換算表……神奈川水試
3. 漁場図……海図No 840号 昭和19年7月21日発行 水路部長 阿部嘉輔